

(公財) 日本住宅・木材技術センター

告示第1460号の木材筋かい1.5cm×9cm以上の筋かい金物について

厚さ1.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい端部の接合方法は、下表の(ロ)とおおり「柱及び横架材を欠き込み、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ6.5cmの鉄丸くぎを5本平打ちしたもの」としています。

この接合方法は、図1のとおりです。厚さ1.5cmの場合は、くぎだけで接合します。筋かいは、木材の厚さ分だけ柱及び横架材(ここでは土台)を欠き込みしてから、N65のくぎを柱に5本、横架材に5本平打ちします。告示の鉄丸くぎは、JIS A 5508(くぎ)-1992に適合するものです。建材販売店には、N65以外にFN65も販売しています。この両者は、外見上区別することが困難なくらい類似しています。FN65は、N65に比べて胴部径が細いため重さもわずかに軽くなります。くぎは、重さで購入することからFN65はN65よりも本数が沢山入っています。このようなことから、N65のくぎを購入するつもりが価格が安く、くぎの本数が多いからといってFN65を選んでしまいがちです。胴部径が細くなることによって、強度も落ちることから誤使用されないように注意する必要があります。NくぎとFNくぎの違いについては、接合金物基礎知識9で解説しています。

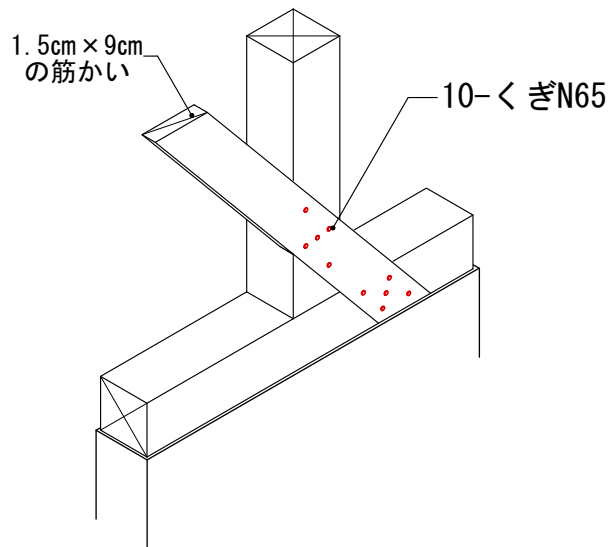


図1 (ロ)の筋かい金物の取合い

建設省告示第1460号：筋かい端部の接合方法

(イ)	<p>径9mm以上の鉄筋</p> <p>柱又は横架材を貫通した鉄筋を三角座金を介してナット締めとしたもの又は当該鉄筋に止め付けた鋼板添え板に柱及び横架材に対して長さ9cmの太め鉄丸くぎ(JIS A 5508(くぎ)-1992のうち太め鉄丸くぎに適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ。)を8本打ち付けたもの</p>
(ロ)	<p>厚さ1.5cm以上で幅9cm以上の木材</p> <p>柱及び横架材を欠き込み、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ6.5cmの鉄丸くぎ(JIS A 5508(くぎ)-1992のうち鉄丸くぎに適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ。)を5本平打ちしたもの</p>
(ハ)	<p>厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材</p> <p>厚さ1.6mmの鋼板添え板を筋かいに対して径12mmのボルト(JIS B 1180(六角ボルト)-1994のうち強度区分4.6に適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ。)締め及び長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを3本平打ち、柱に対して長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを3本平打ち、横架材に対して長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを4本平打ちとしたもの</p>
(ニ)	<p>厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材</p> <p>厚さ2.3mm以上の鋼板添え板を筋かいに対して径12mmのボルト締め及び長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ7本の平打ち、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ5本の平打ちとしたもの</p>
(ホ)	<p>厚さ9cm以上で幅9cm以上の木材</p> <p>柱又は横架材に径12mmのボルトを用いた一面せん断接合としたもの</p>

問い合わせ先：(公財) 日本住宅・木材技術センター 認証部
電話：(03) 5653-7581